

戦友てびき
（国際通信 特輯 第5号 国際
通信パンフレット 第14輯）
国立国会図書館

特501
916



0034660-000

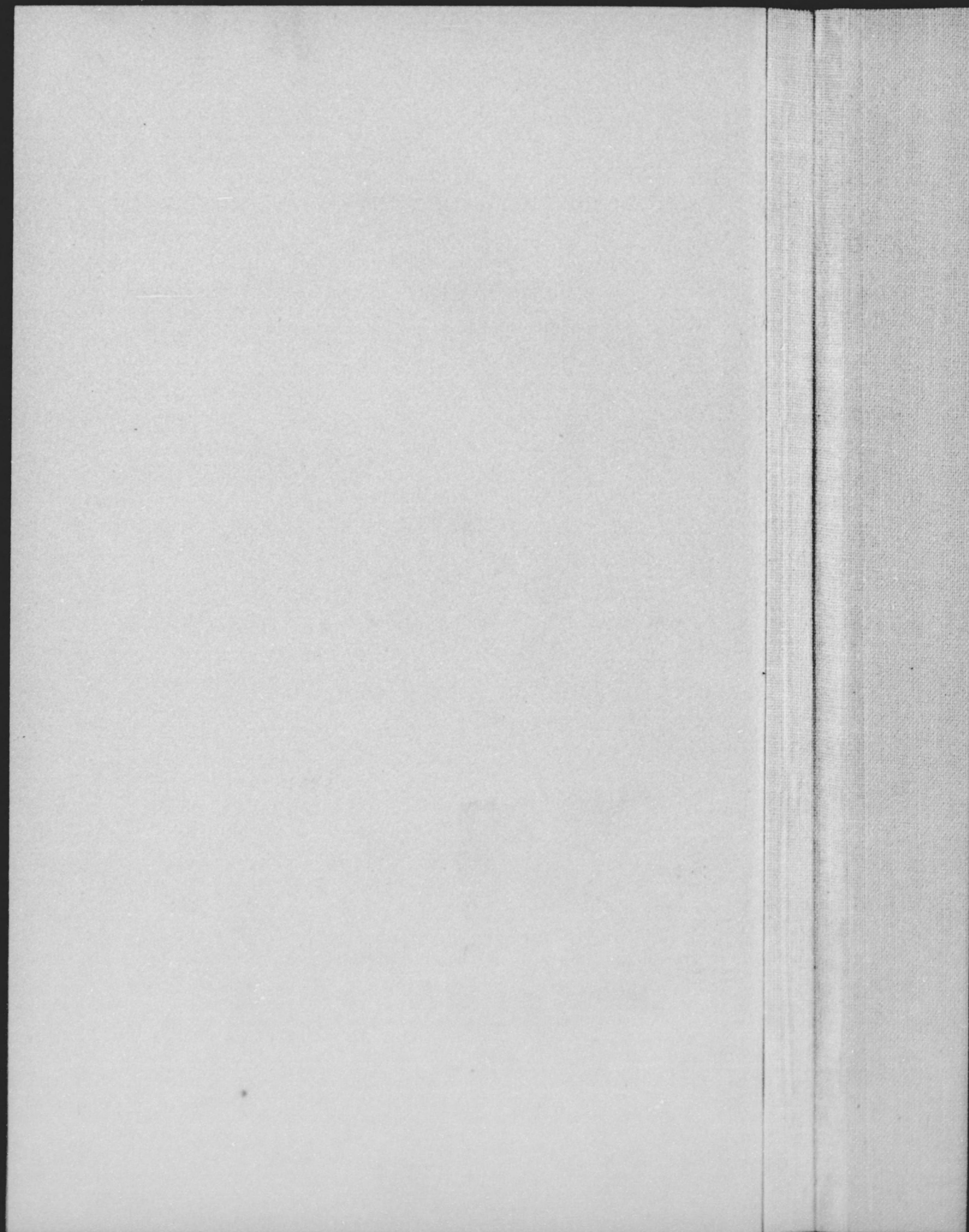
特501-916

戦友てびき

〔国際通信社〕

昭和10. 10

AGC



特52
9/16

戦友てびき



昭和十年十月十日發行



戦友てびき

フアシスト。イタリーはエチオピアを侵略し、飛行機から爆弾を投げ、数千の老弱男女を虐殺し、また、病院まで、爆弾投下の目標とした。イタリーの此の侵略戦争は、何時、帝國主義國間の第一の二の世界戦争となるかも知れない危険性を持つてゐる。これに對し、エチオピア民族始め、全世界の平和愛好者達は、エチオピアを守れ、帝國主義戦争反対の叫びをあげて立ち上つてゐるが、平和のための努力に「民衆の手印」となるべきものを夫にかゝげよう。

【一、世界再分割の爲の戦争準備】
世界経済恐慌と資本主義安定の瓦解は、あらゆる國際關係を極度に不安定なものとした。經濟恐慌の結果として著しく收縮した世界市場におけるさまざまの競争は、猛烈な經濟戦争となつた。既に世界の新しい再分割は始められてゐる。

主權の此政策こそ、新しい帝國主義戦争準備を促進してゐる要素の一つである。

伊太利帝國主義は、アビシニア占領にむけまづいづらに突進し、かくて、帝國主義列強間の關係に新しいこの脅威をつくり出してゐる。

帝國主義者間における主要な對立は英、米間の對立であり、これは、世界政治のあらゆる矛盾に影響を及ぼす。南米、即ち、英、米の利益が最も鋭く衝突してゐる。此處に於ては、此對立は、これら兩國の從屬國間の戦争（ポリビヤ對パラグワイ、コロンビヤ對ペルー）にまでなつて居り、更に、南、中米（コロンビヤ、ヴェネズエラ）における武装衝突の脅威がある。

（ヨーロッパ諸國）特に、獨逸、ポーランド、ハンガリー、伊太利等フアシスト國家の間に、世界の再分割を行ひ、ヨーロッパの國境線を変更せんとする公然たる策動がなされてゐる時に、他のいくつかの國々に於ては現狀維持を欲する傾向がある。現在、この傾向は、世界的規模においては北米合衆國、ヨーロッパにおいては、特に、フランスによつてあらはされてゐる。これら二大帝國主義國が、現狀維持のためになす努力は、新しい帝國主義戦争によつて、その獨りつを奪はれて

は、既に、世界の新たな再分割に向かつて一步を踏み出した。瀛洲及び北支の軍事占領は、支那における勢力範圍と、太平洋における相互關係をとりきめた帝國主義國間の協定たるワシントン條約を、事實上無効にした。日本の掠奪的（領土）擴張は、既に、支那における英、米帝國主義の勢力範圍化と云ふ方向に向かひ、太平洋に於けるイギリス及びアメリカの地保を脅かすと共に、ソヴェット同盟に對する反革命戦争準備である。

ヴェルサイユ條約中、未だに残存してゐるものは、國境と植民地委任權の分配だけである。ヴェルサイユ條約は、ばい債金の支拂停止、ヒトラー政府による徴兵制再興、及び、露國における海軍協定成立の結果として、分解した。

戰爭の主要挑發人であり、ヨーロッパにおける獨逸帝國主義の動機に向かつて努力しつゝある獨逸フアシスト共は、戰爭手段によつて、露國を犠牲にし、かくて、ヨーロッパの國境線を変更せんとする問題を提出してゐる。獨逸フアシスト共の冒險的挑發は、其規模廣大を極め、これは、フランスに

ある數ヶの小國（例へば小聯合、及びバルカン聯合）の諸國、並に、バルチック諸國中の或るものによつて支持されて居る。

フアシズム中では最も反動的であり、最も攻撃的である、獨逸ナチスの勝利と、其戦争挑發（行爲）は、あらゆる國におけるブルジョア中間の最も反動的、最も排外的分子を代表するところの主戰論者共を驅つて、益々猛烈に權力獲得と、國家體のフアシスト化に狂奔させてゐる。

フアシスト獨逸の狂氣的武装——特に徴兵制の再興と空軍、海軍の驚くべき増大——は、資本主義世界を通じて、新しく、すさまじい軍備競争を呼びおこした。世界經濟恐慌にも拘らず、軍備工業は、前代未聞の繁榮をつけてゐる。戰爭準備を極度にすすめた國々（獨逸、日本、伊太利、ポーランド）は、その國家經濟を戰時基礎に置いてゐる。正規軍の他に、特別フアシスト部隊が、國內戰線を整備し、また、戰線に於て憲兵の役目をつとめる爲に訓練されてゐる。適齡前（徴兵前）の軍事教育は、あらゆる資本主義國に擴がり、少年にまで及んでゐる。排外主義、人種的テマの精神における教育、宣傳は極力奨励され、その費用は政府がこれを支出してゐる。

帝國主義的對立尖鋭化の爲、目下のところ反ソ

對する復讐、チエツコ、スロバキアの分割、オーストリーの併合、バルチック諸國の獨立性喪失（そして、これらをソヴェット同盟攻撃の足だまりにしようとしてゐる）、および、ソヴェット同盟からソヴェット、ウクライナの奪取等を含んでゐる。彼等（獨逸フアシスト共）は、植民地を要求し、世界の新しい再分割の爲の世界戦争開始に向かつて好都合な目標をもち來らさうと狂奔してゐる。向から見れば、戰爭挑發者共の、これらの陰謀は、資本主義國家間の對立を激化し、金、ヨーロッパを通じて動搖をつくり出してゐる。

獨逸帝國主義は、ヨーロッパにその同盟者を見出した。それは、これ亦、（ドイツ同盟）チエツコ、スロバキア、バルチック諸國及びソヴェット同盟を犠牲にして領土を擴張しようとするフアシスト、ポーランドである。

英國ブルジョア中間の最有力グループ（即ちヨーロッパ大陸におけるフランスの動機を極め、獨逸武装のホコ先を西方から東方に轉向させ、獨逸の攻撃をソヴェット同盟に向けさせる目的をもつて、獨逸の（再）武装を援助してゐる。この政策によつて、イギリスは、世界的規模において米國に對する勢力均衡を作り、同時に獨逸のみならず、日本、ポーランドにおける反ソヴェット同盟の傾向を強化しようとしてゐる。イギリス

グエイト、ブロックの形成は困難であるが、資本主義諸國におけるフアシスト政府、主戰論者共はこれらの對立（資本主義國家間の）を、全動業者の祖國、即ち、ソヴェット同盟を犠牲にして、解決しようとしてゐる。新しい帝國主義戦争勃發の危険は、今や、日々人類を脅かしてゐる。

【二、平和のための闘争におけるソヴェット同盟の役割】
社會主義工業並に農業の急激なこう隆、最後の資本主義的階級、即ち、クレーク（富農）清算、資本主義に對する社會主義の最後の勝利と、これらの結果（ソヴェット）國家の國力が増大されたため、これら全ての基礎に立つて、ソヴェット同盟と資本主義諸國との相互關係は新生面を開くに至つた。

基本的對立、即ち、社會主義世界と資本主義世界間の對立は、益々甚だしくなつた。だが其國力が増大した爲、ソヴェット同盟は、今迄の所、帝國主義列強と其屬國共によつて、既に準備済みである所の攻撃を抑制し、其確固不動の平和政策——之は戰爭挑發者共に對して向けられてゐるのだ——をよく開陳し得た。此爲、ソヴェット同盟は、階

戦艦に目覚めた労働者ばかりでなく、資本主義
階級民衆の間には、平和のために努力する所の全
労働者の注意の焦點となつた。更に、ソヴェート
同盟の平和政策は、単に、ソヴェート同盟を孤立
させようとする帝國主義者共の計謀を失敗に歸せ
しめたのみならず、平和維持のために、いくつか
の小國家——これらの國々にとつては、戦争は、
(國家的) 獨立を脅かすことになるので、特に
危険である——および、目下のところ平和の
維持を待たざるどころの諸政府との協力の素地
をつくりあげた。

ソヴェート同盟の平和政策——これは、民族的
人種的偏見に對して、プロレタリア國際主義を掲
げてゐる——は、ソヴェート同盟の擁護、社會主
義建設の保障に向けられて居るのみならず、之は
同時に、すべての國々の労働者、全被抑壓者、被
搾取大衆の生命を保護し、小民族(國家)の國家
的獨立を防衛し、人類の最大利益に奉仕し、文化
を、戦争の野蠻からまもるものである。

帝國主義諸國家間の新しい戦争が、日一日と逼
迫しつゝある時に、ソヴェート同盟の労働者、農
民の赤軍は、平和のための闘争に於て、益々、そ
の重要性を増して行く。帝國主義國、特に、獨逸
日本、ポーランドが軍備擴張に狂奔してゐる状況
下に、平和愛好の士は、おしなべて、赤軍の強化

と、統一戦線を形成するには、社會民主主義諸黨
中の反動的分子、即ち、戦争挑発の危險を目的に
に、従前にも増して、ブルジョア祖國擁護の爲にプ
ルジョアジイとの協力をし、ソヴェート同盟に
對して罵罵のキャンペーン(運動)を行ふことによつて、
反ソ戦争決行に手を借して居る所の分子に對する
決定的な思想的闘争を行ふことが必要である。

この(統一戦線)ためには、社會民主主義諸黨
政黨、改良主義労働組合、および其他の大衆的勞
働者團體の會員中で、まず、帝國主義戦争に
對する革命的闘争の立ち場に接近しつゝある者達
と、密接な提携を行はなければならぬ。

平和のための統一戦線闘争に平和主義者の諸黨
体並に、その支持者達をひき込むことは、戦争反
對の爲に、小ブルジョア大衆、進歩的知識階級、
婦人、青年を動員するのに、ますます重要になつ
てくる。まじめな平和主義者達の見解の誤りは、
これを、絶えず建設的に批判し、また、その政策
によつて、獨逸ファシスト共の帝國主義戦争準備
を打ちかくしつゝあることと平和主義者共(例へ
ば、イギリス労働黨の指導部等)と猛烈に闘ふ
一方、共産主義者は、帝國主義戦争反對の正しい
闘争に共産主義者を行を共にする——假へ、夫が
途中途であつても——用意のある平和主義者の戰
力とは、どこまでも協力するように持ちかけなけ

その積極的支持に多大の關心を持つ。

三、平和と帝國主義戦争反對の爲 の闘争における國際共産黨の任務

マルクス・エンゲルス・リニスターリンの
教への基礎に立ち、コミンテルン(國際共産黨)
第六回世界大會は、帝國主義戦争に對する闘争に
於ける共産黨並に革命的プロレタリアートの諸任
務を、具体的に、決定した。これらの原則の上に
たつて、日本および中國(支那)共産黨——この
兩者は、直接、戦争の影響を受けたのだ——は、
帝國主義戦争反對、中國民衆擁護のためにボルシ
エビキの闘争を行ひ、また、これをけい讚しつ
つある。コミンテルン第七回世界大會は、帝國
主義戦争に對する闘争に關し第六回大會が採決し
たところの決定を承認し、各國共産黨、革命的勞
働者、勤勞者、農民、および全世に被抑壓民衆
の爲に、次の主要任務を提出する。

一、平和とソヴェート同盟擁護の爲の闘争。
獨逸ファシスト共と日本軍部の戦争挑発行為。
資本主義諸國に於ける主權論者共の軍備促進、ソ
ヴェート同盟に對する反革命戦争が何時勃發する
やも知れぬ情勢に直視し、各國共産黨の中心スロ
ーガンは、「平和のための闘争」これである。

二、平和の爲の努力、と戦争火付け人共に對す
る闘争における統一人民戦線。平和のための闘争
は、共産黨の面前に、廣汎な統一戦線しゆ立のた
めの絶好の機會を切り開いた。平和維持に關心を
持つものは、すべて、統一戦線に引き込むように
せねばならぬ。その時々には、戦争火付けの張
本人共(現在のしゆん間に於ては——ファシスト
獨逸と夫に組するポーランド、日本)に對して、
砲火を集中すること、各共産黨の、最も重要な戰
術的任務である。獨逸共産黨にとつては、ヒトラ
ー・ファシズムの國家的デマー——例へば、獨逸民
族の統一云々の言葉を弄しつゝ、其實、獨逸民衆
を孤りつさせ、新しい戦争の機運に導く——を
露すること、特に、大きな重要性を持つ。獨逸民
族統一のため必要欠くべからざる前提條件は、ヒ
トラー・ファシズムの打倒である。社會民主主義
および改良主義諸組織(政黨、労働組合、協同組
合、スポーツ、文化、教育團體等)之等の階級
の會員の大多数、並に、大衆的民衆解放組織、宗
教的民主主義團體、各種平和協會また其支持者等
と、統一戦線をしゆ立する事は、戦争、及び、各
國におけるその挑発者共に對する闘争において、
決定的に重要なものである。

三、平和の爲の努力、と戦争火付け人共に對す
る闘争における統一人民戦線。平和のための闘争
は、共産黨の面前に、廣汎な統一戦線しゆ立のた
めの絶好の機會を切り開いた。平和維持に關心を
持つものは、すべて、統一戦線に引き込むように
せねばならぬ。その時々には、戦争火付けの張
本人共(現在のしゆん間に於ては——ファシスト
獨逸と夫に組するポーランド、日本)に對して、
砲火を集中すること、各共産黨の、最も重要な戰
術的任務である。獨逸共産黨にとつては、ヒトラ
ー・ファシズムの國家的デマー——例へば、獨逸民
族の統一云々の言葉を弄しつゝ、其實、獨逸民衆
を孤りつさせ、新しい戦争の機運に導く——を
露すること、特に、大きな重要性を持つ。獨逸民
族統一のため必要欠くべからざる前提條件は、ヒ
トラー・ファシズムの打倒である。社會民主主義
および改良主義諸組織(政黨、労働組合、協同組
合、スポーツ、文化、教育團體等)之等の階級
の會員の大多数、並に、大衆的民衆解放組織、宗
教的民主主義團體、各種平和協會また其支持者等
と、統一戦線をしゆ立する事は、戦争、及び、各
國におけるその挑発者共に對する闘争において、
決定的に重要なものである。

四、軍國主義並に軍備に對する闘争。全資本主
義國の共産黨は、軍事費(陸、海、空軍豫算)反
對、植民地、委任統治(區域)等から武装部隊の
召還、資本主義政府による(民衆)特に、青年、
婦女子、失業者等の軍事化反對、戦争準備として
ブルジョア民主的自由を緊急命令によつて制限す
ること反對、軍需工場就働労働者の權利減少反對
軍事工業への補助費(支出)反對、武器の輸出、
輸送反對、等々の闘争を行はねばならぬ。戦争準
備工作に對する闘争は、労働者、事務員、勤勞農
民、都市小ブルジョアジイの經濟的利害、政治的
權利防衛の闘争と、密接にむすびつけて始めて可
能である。

五、排外主義に對する闘争。排外主義との闘争
にあたり、共産主義者の任務は、労働者並に、全
勤勞大衆を、プロレタリア國際主義の精神——こ
れは、搾取者、抑壓者に抗し、プロレタリアート
の重大な階級利害の爲に闘ひ、又、ナチスを始め
あらゆるファシスト政黨の野蠻的排外主義との闘
争を通じて、始めて、到達し得るのだ——に於い
て、教育する事である。同時に、共産主義者は
労働階級が、あらゆる民族(民衆)の民族的自由
獨立を擁護して、どこ迄も闘争を遂行するもので
あるといふことを、示すべきである。何故ならば
共産主義政策のみが、その國の民族的自由、獨立
を、最後まで防衛するものだからである。

六、民族解放闘争と民族解放戦争への支持。獨
逸國家が、一つ乃至二つ以上の帝國主義強國——
これらの國家は問題の弱少國の獨立性を奪ひ國家
的統一を破壊し、或は其分割を意圖してゐる——
によつて攻撃された場合(歴史的な例をとるな
らば、ポーランドの分割)、(攻撃された弱少)
國家のブルジョアジイによつて、この攻撃を撤退
するために決行される戦争は、解放戦争の性質を
帯びることあり得、従つて、かかる場合、(戰
争の國の)労働階級および共産主義者は、これに
参加せざるを得ない。この様な國の共産主義者の
任務は、一方に於て、労働者、勤勞農民、および

(國內)少數民族の經濟的、政治的保護をあく迄
防衛すると同時に、他方、民族の獨立の爲に國
土の先頭に立ち、「自國」ブルジョアを
して、自國の利益を犠牲にして、交戦國と妥協を
することを許さず、最後まで解放戦争を闘ふべき
である。

植民地、半植民地の被抑壓民衆の民族解放戦争
特に、中國ソヴェート赤軍の日本および他帝國主
義と國民黨に對する闘争を支持することは、共產
主義者の任務である。中國共産黨は、全力をつく
して、民族解放戦争の戦線を擴大し、これに、日
本および他の帝國主義者共の強盜カンパ(運動)
を撃退する用意のあるところのあらゆる民族的勢
力を引き込まなければならぬ。

【四、平和のための闘争から
革命の爲の闘争へ】

國際共産黨第七回世界大會は、卑劣極まるお
く、戦争の結果革命を起さうと、共産黨は戦
争を欲してゐる、と云ふおどろきを決定的にしりぞ
ける。平和の持、ソヴェート同盟の平和政策の勝
利のために各國共産黨がつとめる指導的役割は

「國際通信」 特報第一號要目
△社會主義がファシズムか……ビ
△統一された力を以てファシズム粉砕へ
△……ドミトロフ

△革命の勝利の爲に
(ビークの報告に基づく第七回大會決議)

「國際通信」 特報第二號(九月)
△もん切り強主義を排せ……ドミトロフ

△全世界労働組合の統一合同に向つて
……ロフスキー

「國際通信」 特報第三號要目
△帝國主義戦争準備と
國際共産黨の任務

△宗派主義を清算して
大膽に統一戦線、組合統一運
動に……加せよ……工

「國際通信」 特報第四號
△ファシズムの攻せいと、反ファシズム闘争
に於ける労働階級の統一のための國際共産黨
の任務(同志ドミトロフの報告に基づく決議)

各一部五錢 二錢、三錢の郵便切手を
封入して、たぐちに本社宛申込め!

昭和十年【一九三五年】十月十日發行 國通パンフ第十四號 一部五錢

【國通通信】 特報第五號 國通通信社 The KOKUTSU-SHA, % The Prompt Press, 39 E. 12th St., New York, N. Y.

アのボルシェビキ達は、かくの如き手段を採
した。かくの如き方法は、單に、ブルジョア政府
をして、共産主義者に對して彈壓手段をとるのを
より身ならしめ、後者(共産主義者および革命的
労働者)が動員大衆、特に兵士大衆を、帝國主義
戦争に對する大衆的闘争、帝國主義戦争をブルジ
ョアに對する内亂に轉化する爲に獲得するこ
とを妨げるのみである。

國際共産黨第七回大會は、戦時における共産黨
ならびに、全労働階級の任務を規定するにあたり
レニンおよびルクセンブルグにより提案され、戰
争の第二インターナショナル、スツッガルト大會
に於て採用されたテーゼを基礎とする、即ち、

「あらゆる努力にも拘らず戦争が勃发了した
命、被等(労働階級、勤勞者)は、出来る
だけの努力をつくし、戦争を出来る丈早く終
結させる爲に活動し、戦争によつて惹起され
た經濟的、政治的危機を利用し、民衆の政治
的意識を喚起し、かくて、資本家階級支配の
可駁をはかるべきである。」

現在の歴史的しゅん間、即ち、地球の陸地六分
の一地に於て、ソヴェート同盟が社會主義と平

共産主義者が、新らたな戦争の準備とこれの進行
を邪魔するために全力を傾倒してゐることを證據
だてゝある。

共産主義者は、また、資本主義が存在しても戦
争は防止出来ると云ふ幻想を闘ふが、他方、戦争
阻止のために全力をつくす。労働階級のあらゆる
努力にも拘らず、新らたな帝國主義戦争が起つた
場合、共産主義者は、平和の爲の闘争に組織され
た戦争反對者達を指導し、之らの者を、帝國主義
戦争を轉化し、戦争のファシスト火つけ人共、並
にブルジョア反對の内亂とし、資本主義を打
倒する爲の闘争に導く様に努力するであらう。

本大會は、同時に、共産主義者、ならびに、革
命的労働者に向かひ、警告を發する、即ち、戦争
反對闘争の方法として、アナルコリサンデカリ
スト(無政府主義)的手段、云ひかへれば、兵役
義務拒絶、勤員の所謂ボイコット、軍需工場にお
けるサボタージュ、(大衆的でなく個人的な行爲
譯者)に歸つてはならぬと。かくの如き闘争
手段は、プロレタリアートを損なふのみであると
本大會は駁める。世界戦争最中、精力的に戦争反
對の闘争をし、ロシア政府敗北の爲に闘つたロシ

「國際通信」の統一のための國際共産黨の任務」と題され
てゐる。()

正誤

「國通パンフ第十三號コンメンタルン世界大會
主要決議中、第十ページ上段五行目

「自國國家の運命がどうなつても、云々」
は

「自國民衆の運命がどうなつても、云々」
のあやまりにつき訂正。

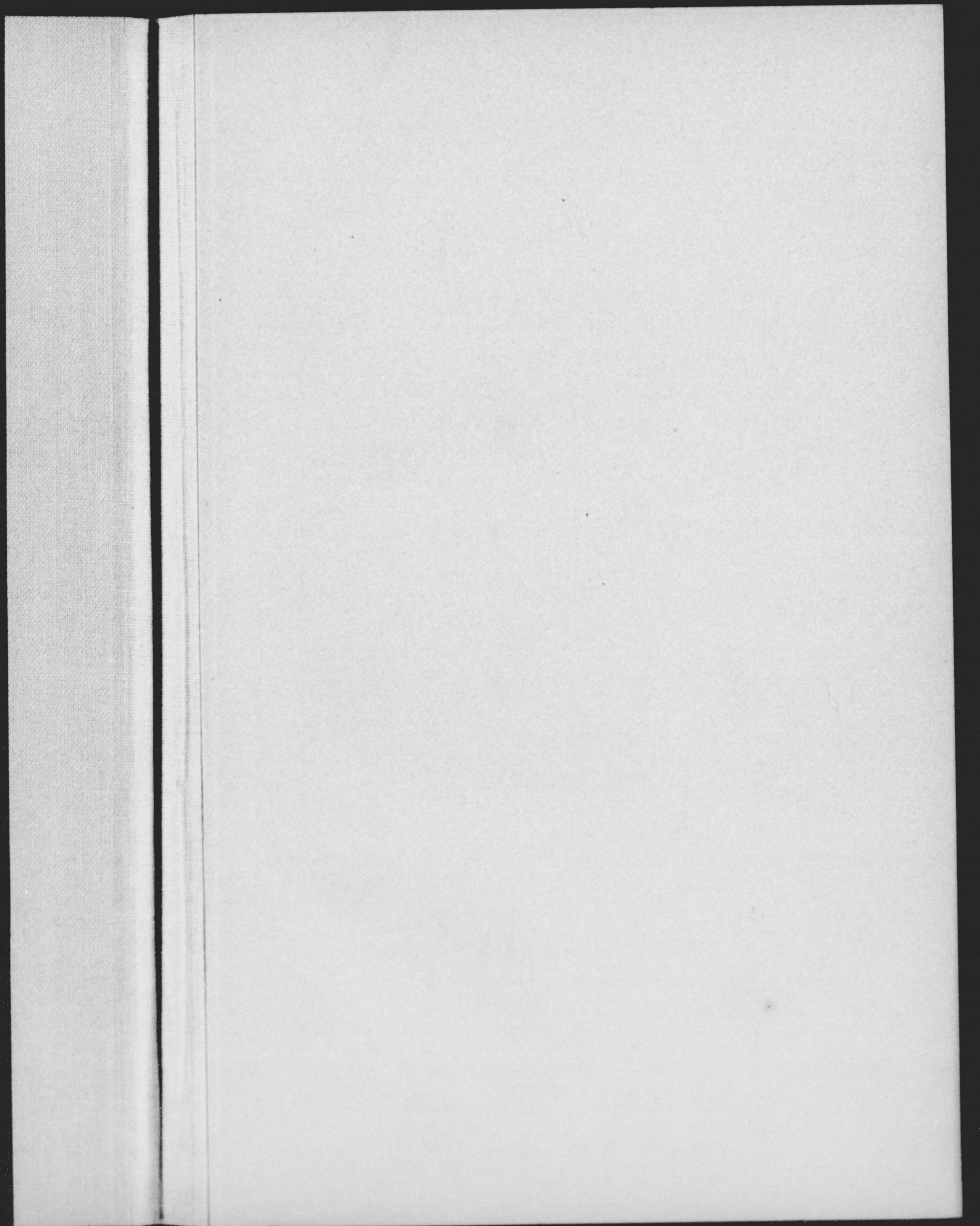
(をばり)

和と全人類を防衛してゐる時に、萬國の労働者の
決定的利害のために、労働階級政策を遂行し、戦
争の開始前も、開始後も、平和の爲に闘争し帝國
主義戦争に反對するに當たり、最も重大なのは、
ソヴェート同盟を擁護することである。
万一反革命戦争が勃发了の結果、ソヴェート同
盟が、その労働者、農民赤軍を社會主義防衛のた
め動員した場合、共産主義者は、全勤勞者に向か
ひ、及ぶ限りの手段をつくし(また)如何なる犠
牲を拂つても、帝國主義者の軍隊に對し、赤軍が
勝利を得るよう活動せよと呼びかけるであらう。

(本文は 本年七月廿五日より八月廿三日にか
けて、モスコで開かれた國際共産黨第七回世界
大會において、同志エルコリの報告に基づき採用
された「帝國主義者共の新しい世界戦争準備に關
連する國際共産黨の任務」と題する決議である)
(尚、「國通」パンフ第十三號【十月五日はつ
行】は、同大會における主要決議で、同志ドミト
ロフの報告に基づいて採決されたもの。原文は「フ
アシズムの攻勢と、反ファシズム闘争に於ける勞

昭 和 10.11.13
訓 第
No.

國立國會圖書館



1950